高校生がレポート!!

# 地元企業を紹介！

問合先　まちの活性課（☎469-3131）

市内の地元企業を、地元の高校生が訪問して紹介します。

今回は、りんくうタウン駅近くにある「株式会社日本ネットワークサポート」佐野工場を、府立日根野高校2年の辻　陽大さん（左）、平野　宙さん（中央）、中西ありすさん（右）がレポートしてくれました。

## 今月の地元企業

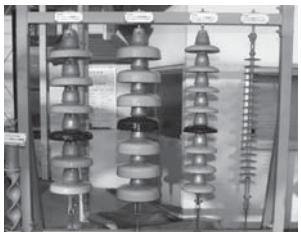
**株式会社日本ネットワークサポート佐野工場**

- 創業…1920年
- 所在地…松原3丁目4-38
- 主な業務内容…がいし製造

佐野工場で製造している「がいし」は電気を絶縁するために使用され、主に全国の電力会社をはじめJR各社および全国の鉄道会社などで使用されています。特に送電線で使用される製品については、国内で2社しか製造されておらず重要な役割を受けています。

また佐野工場は1920年に創業され、2020年には100周年を迎えます。

▼さまざまな種類の「がいし」



**Q　御社で作られている「がいし（碍子）」とは、そもそも何なのですか？**

A　「がいし」とは、電気を通す電線や鉄道の架線と電柱を絶縁するための部品です。つまり電柱を通して電線からの電気が地面に流れないようにするためのものです。

「がいし」は、陶石など数種類の材料を調合した土を高温で焼きあげて作る磁器製品が主流です。何十年も野外に曝されるものなので、耐久性が重要になってきます。そのための試験もたくさん行っています。

**Q　今、お仕事での「夢」は何でしょう？**

A　まず、東京オリンピックが開催される2020年2月に100周年を迎える会社としての歴史をさらに未来に繋げ、これまで以上に地域に貢献していきたいと考えています。

また、磁器素材がメインであった「がいし」の世界に、新たな「ポリマーがいし」を導入したように、今後も新しい製品を開発・製造していき、日本から落雷や塩害で発生する停電をなくすことがひとつの夢です。

▲副工場長の小泉裕人さん（左）と研究開発センター マネジャーの西　泰宏さん（右）

**Q　どんなことが「働くやりがい」ですか？**

A　社会のニーズを先取りし、高品質な製品で、お客様に満足と安心をお届けすることです。

**Q　これから社会に出ていく私たちのような高校生に、メッセージをお願いします。**

A　今、自分が将来何をしたいかは、ほとんどの方はまだ決まっていないと思います。将来したいことも変わっていくでしょう。しかし、どんな時も目標に向かって、いろんなことに興味を持ち、少しずつでもいいので前向きにチャレンジして欲しいと思います。この自分へのちょっとずつの積み重ねが、これからの人生で何かを成し遂げる大きな力になり、誰にも負けない何かを作りだす力に繋がります。これだけで、今は充分だと思います。

ぜひ泉佐野の高校生のみなさんで興味を持たれた方は、気軽に工場見学などにお越しください。

**■企業訪問を終えての感想**

**【平野　宙さん】**

今回、これまで自分たちがあまり知らなかった「がいし」について沢山のことを学ぶ機会となりました。製造工程のビデオから工場内見学、普通では見ることのできないバックヤードも見ることができました。企業のあり方なども聞かせてもらい、これからの進路選択について考える良いきっかけとなりました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

**【中西ありすさん】**

「がいし」という聞きなれない言葉が何のことなのか、よく分かっていませんでした。それが想像よりはるかに大切なもので、私たちの生活に無くてはならないものと分かりました。身近にこんな大切な会社があることも知らなかったので、この企業訪問に参加して本当に良かったと思います。

**【辻　陽大さん】**

今回、初めて「がいし」という存在を知り、見たときも「これが一体なんの役に立つのだろうか」と考えてしまったのですが、実際の説明でその重要性が分かり、こがいかにすごいのか理解できました。そして、今の日本の安定した生活は、この人たちのおかげなのだろうと心底思いました。電力を安定供給させるための「がいし」もそれを作る人々もすべて日本の宝なのだと思います。